



観光大国秋田が 独立宣言!

[秋田市観光クチコミ大使]

日本航空株式会社 ベトナム支店 支店長

天川谷 茂氏

県南の美郷町で生まれ育った私は秋田が嫌いでもたまらなかった。冬の鉛色の空、見渡す限りの田んぼの風景、チャンネルの少ないテレビ。「なんもねえ」この秋田から早く脱出し、都会へ行くことしか考えていなかった。高校を出ると、さっさと東京へ行って遊びまくり、会社に入って大都会ばかりで勤務をした後、4年前に突然秋田への転勤を告げられた。都落ちだと思った。会社は何を好き好んであの嫌いだっただ秋田へ自分を行かせるのか、納得がいかなかった。そんな思いで春の秋田空港に降り立った。それがその時の正直な気持ちだった。

その後、挨拶回りで県内各地を車で走っていると、私は道沿いの木々の緑の濃さに目を奪われてしまった。「何だ、この緑の青々とした感じは！今まで見たこともない。こんな風景が秋田にあったとは。自分はここで生まれ育ったのに何で気づかなかったのだろう」。仕事柄世界中のいろいろな観光地を見て廻った。日本では到底お目にかかれない数々の圧倒される景勝地も訪問してきた。そんな自負もある。でもこの秋田の新緑の青さがすべての過去の経験を圧倒していたのである。自然の素晴らしさに圧倒された私は、次々と秋田の奥の深さに触れることとなった。高尾山から見る雄物川の流れ、ユアシスの油っぽくて濃い源泉温泉、モロヘイヤ専門農家レストラン。獅子ヶ鼻湿原のあがりこ大王との出会い、象潟の道端の岩ガキ、小学校跡地につくられた金浦温泉・学校の栖。そして、それにも増して奥深いのが秋田で出会った人達の懐の深さ。シャイで親切で知識欲旺盛で酒飲みでかつ謙虚。秋田に来てほんの数ヶ月で川反の店で純米吟醸といぶりがっこに酔っていた私は、とっくの昔に「なんもねえ」秋田嫌いから「なんでもあ

りあり」の秋田轟真に変身し、自分の生まれ故郷をものすごく誇りに思うようになっていた。

「るぶ」という旅行ガイドブックの名前は、創刊当時の観光の目的である「見る、食べる、遊ぶ」から名付けられたという。では今の時代はというと「体験する、感動する、学ぶ」なのだという。秋田にはこの目的に合う観光素材が十分に備わっている。でも秋田の人はズルい。山菜を採るだけでも熊に出会わないようにどきどき体験をし、立派な旬の竹の子の味に感動し、その採り方や調理を学んでいく。それも自分だけ、人には言わない。観光立県になるためには、人に宣伝しないとイケない。秋田の人は口下手だ。だから無理やりでも宣伝するためにもこうしたらどうか。それは秋田の日本からの「独立」である。まず独立自体がニュースバリューになる。秋田の名は飛躍的に高まる。そして独立によって県外からの訪問者にはパスポートが必要とされる。仮にパスポート代が¥10,000としても訪れるべき価値のある秋田。観光素材としては質量ともに十分であり、¥10,000の価値を胸を張って提供できる人達も揃っている。誰もやらなかったことを率先してやってきた秋田。今こそ「観光独立」を宣言する時である。

■略歴

昭和37年	秋田県美郷町生まれ
昭和56年	横手高校卒業
昭和61年	早稲田大学卒業
同年	日本航空入社
平成24年	日本航空秋田支店長
平成27年	日本航空ベトナム支店長

※秋田ふるさと検定1級取得(平成26年)